

安全データシート (SDS)



SDS No.: X-2-1018-1

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : A113
 供給者の会社名称 : 伯東株式会社 システムプロダクツカンパニー 営業二部
 住所及び電話番号 : 東京都新宿区新宿1丁目1番13号 03-3225-8938
 FAX番号 : 03-3225-9011
 緊急連絡先 : 同上
 推奨用途及び使用上の制限 : 真空ポンプ用潤滑油

2. 危険有害性の要約

〔化学品のGHS分類〕

| | | |
|------------------|-----------------|---------------------------|
| 物理化学的危険性 | 引火性液体 | : 区分に該当しない |
| | 可燃性固体 | : 区分に該当しない |
| | 酸化性液体 | : 分類できない |
| | 酸化性固体 | : 区分に該当しない |
| | 金属腐食性化学品 | : 分類できない |
| | その他の危険性 | : (上記以外の物理化学的危険性がある場合に記載) |
| | 健康に対する有害性 | 急性毒性 (経口) |
| 急性毒性 (経皮) | | : 区分に該当しない |
| 急性毒性 (吸入:蒸気) | | : 分類できない |
| 急性毒性 (吸入:粉塵・ミスト) | | : 分類できない |
| 皮膚腐食性/皮膚刺激性 | | : 分類できない |
| 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | | : 分類できない |
| 呼吸器感作性 | | : 分類できない |
| 皮膚感作性 | | : 分類できない |
| 生殖細胞変異原性 | | : 分類できない |
| 発がん性 | | : 分類できない |
| 生殖毒性 | | : 分類できない |
| 授乳に対する又は授乳を介した影響 | | : 分類できない |
| 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) | | : 分類できない |
| 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) | | : 分類できない |
| 誤えん有害性 | | : 分類できない |
| 環境に対する有害性 | | 水生環境有害性 短期 (急性) |
| | 水生環境有害性 長期 (慢性) | : 分類できない |
| | オゾン層への有害性 | : 分類できない |

〔GHSラベル要素〕

絵表示又はシンボル : なし

| | | |
|-----------|---|------------------------------------|
| 注意喚起語 | ： | なし |
| 危険有害性情報 | ： | 特になし |
| 注意書き：安全対策 | ： | 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。 |
| 応急措置 | ： | 気分が悪いときは医師に連絡すること。 |
| 保管 | ： | 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。 |
| 廃棄 | ： | 内容物／容器を国／都道府県／市町村の規則に従って適切に廃棄すること。 |
| 国／地域情報 | ： | 有用情報なし |

3. 組成及び成分情報

| | | |
|------------------------|---|-------------------------|
| 化学物質・混合物の区別 | ： | 化学物質 |
| 化学名又は一般名 | ： | パーフルオロポリエーテル |
| CAS番号 | ： | 非公開 |
| 官報公示整理番号 | ： | 化審法番号及び労働安全衛生法番号は記載確認済み |
| GHS分類危険有害性成分及び濃度（濃度範囲） | ： | 特になし |

4. 応急措置

| | | |
|--------------------------------|---|--|
| 吸入した場合 | ： | 風通しのよい場所に移動し、新鮮な空気を吸わせる。異常があれば、医師の診断・手当を受ける。 |
| 皮膚に付着した場合 | ： | 多量の水と石鹼で洗い流し、刺激が残っていれば、医師の診断・手当を受ける。 |
| 眼に入った場合 | ： | 直ちにまぶたを開き、多量の水で15分以上注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当を受けること。 |
| 飲み込んだ場合 | ： | 吐かせない。コップ1～2杯の水を与え、口をすすぎ、直ちに医師に連絡する。被災者に意識が無い場合は、口から何も与えてはならない。 |
| 予想される急性症状及び遅発性症状並びに最も重要な徴候及び症状 | ： | 有用情報なし |

5. 火災時の措置

| | | |
|-------------|---|---|
| 適切な消火剤 | ： | 水（霧状）、泡消火剤、二酸化炭素消火剤、粉末消火剤 |
| 使ってはならない消火剤 | ： | 特になし |
| 特有の消火方法 | ： | 不燃性だが、加熱されると圧力が上昇し、容器が破裂する危険性がある。 |
| 特有の危険有害性 | ： | 火災時の燃焼や高温により、有害なヒュームやガス（炭素酸化物、フッ化水素など）が発生する可能性がある。 |
| 消火を行う者の保護具 | ： | 状況に応じて適切な保護具（呼吸用保護具、防護服、保護手袋、長靴、保護メガネ等）を着用し、製品の吸入や接触を避ける。 |

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・ 作業者は状況に応じて適切な保護具（呼吸用保護具、防護服、保護手袋、長靴、保護メガネ等）を着用し、製品の吸入や接触を避ける。また、作業は風上から行う。

環境に対する注意事項

- ・漏出物を直接、河川などに流したり、飛散させたりしてはならない。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材
- ・少量の場合、おがくず、ウエス、乾燥砂等に吸収させて密閉可能な空容器に回収する。
 - ・多量の場合、盛り土等で囲って流出を防止し、密閉容器に回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

| | | |
|-----|-----------|--|
| 取扱い | 技術的対策 | : 「8. ばく露防止及び保護措置」を参照 取扱い時には局所排気、全体換気を行うこと。 |
| | 安全取扱い注意事項 | : 「2. 危険有害性の要約(注意書き)」を参照 取扱い時は、適切な保護具を着用する。 容器を転倒・落下させる、衝撃を加える、又は引きずる等の粗暴な取扱いをしない。 静電気放電に対する予防策を講じること。 火気及び高温体の近くで取り扱わない。 熱分解を避けるため、過熱しない。 換気の良い場所で取り扱う。 使用中は飲食、喫煙をしない。 |
| | 接触回避 | : 「10. 安定性及び反応性」に記載の混触危険物質との接触を避ける。 他薬品を混入しない。 |
| 保管 | 安全な保管条件 | : 「10. 安定性及び反応性」に記載の混触危険物質と同一場所に保管しない。 密閉状態で換気が良好な冷暗所に保管する。 |
| | 安全な容器包装材料 | : 高密度ポリエチレン |

8. ばく露防止及び保護措置

| | |
|------------|---|
| 管理濃度 | : フッ化水素 : 0.5ppm |
| 許容濃度 | : フッ化水素 : 最大許容濃度 3ppm, 2.5 mg/m ³ (日本産業衛生学会, 2019年版) Fとして (TLV-TWA) 0.5ppm, (TLV-STEL) 2ppm (ACGIH, 2017年版) |
| 設備対策 | : 法で定められたものはない。取扱い場所近くに洗眼及び身体洗浄の設備を設ける。 十分な換気を確保する。 |
| 保護具 | |
| 呼吸器用保護具 | : 製品の蒸気に触れる可能性のある作業を行なう場合、呼吸用保護具を使用する。 |
| 目の保護具 | : ゴーグル型又はサイドシールド付保護メガネ |
| 手の保護具 | : 耐薬品性保護手袋 |
| 皮膚及び身体の保護具 | : 耐薬品性保護エプロン(保護衣、前掛け)及び保護靴等 |

9. 物理的及び化学的性質

| | | | |
|---------------|-----------|----------------------|-----------------------|
| 物理状態 | : 液体 | pH | : 測定データなし |
| 色 | : 無色 | 動粘性率 | : 測定データなし |
| 臭い | : 無臭 | 粘性率 | : 95~560 mPa·s (20°C) |
| 融点/凝固点 | : 測定データなし | 溶解度 | : 非水溶性 |
| 沸点又は初留点及び沸騰範囲 | : > 270°C | n-オクタノール/水分配係数(log値) | : 測定データなし |

| | | | |
|-------------------|-----------|-------------|---------------------------------|
| 可燃性 | : 不燃性 | 蒸気圧 | : 0.0000001~0.000013 hPa (20°C) |
| 爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界 | | 密度及び／又は相対密度 | |
| | : 測定データなし | | : 1.88~1.90 g/cm ³ |
| 引火点 | : なし | 相対ガス密度 | |
| 自然発火点 | : 測定データなし | | : 測定データなし |
| 分解温度 | : > 290°C | 粒子特性 | : 測定データなし |
| | | その他 | : 有用情報なし |

10. 安定性及び反応性

| | |
|------------|---|
| 反応性・化学的安定性 | : 安定 |
| 危険有害反応可能性 | : 特になし |
| 避けるべき条件 | : 高電圧電気アークが存在し、酸素がない状態。 炎。 熱分解を避けるため過熱。 |
| 混触危険物質 | : 100°C超でのルイス酸 200°C超での粉末アルミニウムとマグネシウム 金属は分解温度の低下を促進する。 |
| 危険有害な分解生成物 | : 熱分解により、有毒で腐食性のガス（フッ化水素、フッ化ホスゲン等）が放出される可能性がある。 |

11. 有害性情報

| | |
|----------------------|--|
| 急性毒性 | : LD50（経口、ラット）> 15,000 mg/kg LD50（経皮、ラット）> 5,000 mg/kg |
| 皮膚腐食性／皮膚刺激性 | : ウサギ：刺激性なし |
| 眼に対する重篤な損傷性／ 眼刺激性 | : ウサギ：刺激性なし |
| 呼吸器感作性又は皮膚感作性 | : モルモット：皮膚感作性なし |
| 生殖細胞変異原性 | : Ames試験：陰性 in vitro染色体異常試験：陰性 |
| 発がん性 | : 測定データなし |
| 生殖毒性 | : 測定データなし |
| 授乳に対する又は 授乳を介した影響 | : 測定データなし |
| 特定標的臓器毒性（単回ばく露） | : 測定データなし |
| 特定標的臓器毒性（反復ばく露） | : 測定データなし |
| 誤えん有害性 | : 測定データなし |
| 有害性—その他 | : フッ素化ポリマーの熱分解蒸気は、特にタバコを吸う場合に、インフルエンザのような症状を伴う熱を引き起こす場合がある。 分解生成物をばく露した場合：眼、皮膚、粘膜に強い刺激を与える可能性がある。 |

12. 環境影響情報

| | |
|-----------|--|
| 生態毒性（魚毒性） | : LC50（ゼブラフィッシュ、96h）> 360 mg/L EC50（オオミジンコ、48h）> 360 mg/L |
| 残留性・分解性 | : 容易に生分解されない。 |

| | |
|-----------|-----------|
| 生体蓄積性 | : 測定データなし |
| 土壤中の移動性 | : 測定データなし |
| オゾン層への有害性 | : 有用情報なし |
| その他 | : 有用情報なし |

13. 廃棄上の注意

廃棄の方法、残余廃棄物

- ・「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等および地方自治体の基準等に従う。
- ・都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者または地方公共団体が廃棄処理を行っている場合は当該地方公共団体に委託して処分する。

汚染容器および包装

- ・容器は洗浄してリサイクルまたは関連法規制並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
- ・空容器を処分する場合は、内容物を完全に除去する。

14. 輸送上の注意

国際規制（陸上、海上、航空）

| | |
|--------|--------|
| 国連番号 | : 該当せず |
| 品名 | : 該当せず |
| 国連分類 | : 該当せず |
| 副次危険性 | : 該当せず |
| 容器等級 | : 該当せず |
| 海洋汚染物質 | : 非該当 |

特別の安全対策

- ・運搬の際、容器に漏れが無いことを確認し、転倒、落下が無いように荷崩れ防止を確実にを行う。

緊急時応急措置指針番号 : 171

国内規制

| | |
|-------|--------|
| 航空法 | : 該当せず |
| 船舶安全法 | : 該当せず |
| 道路法 | : 該当せず |

15. 適用法令

労働安全衛生法

| | |
|-----------------|------------------------------|
| 通知対象物質（法第57条の2） | : 該当せず |
| 表示対象物質（法第57条） | : 該当せず |
| 危険物（令別表1） | : 該当せず |
| 特定化学物質（特化則） | : 該当せず |
| 有機溶剤（有機則） | : 該当せず |
| 消防法 | : 該当せず |
| 毒物及び劇物取締法 | : 該当せず |
| 化学物質管理促進法 | : 該当せず |
| 水質汚濁防止法（法第2条） | : [有害物質] 該当せず [指定物質] 該当せず |
| その他 | : 有用情報なし |

16. その他の情報

本文書は、JIS Z 7252 : 2019 及び JIS Z 7253 : 2019に基づいて作成しております。

本文書の記載内容は、当社の最新の情報に基づくものですが、安全性を保証するものではありません。また、含有量、物理／化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。

すべての化学品には未知の有害性がありうるため、取扱いには細心の注意が必要です。

この情報は新しい知見及び試験等により、改訂されることがあります。

注意事項等は、通常の実用を対象としたものです。実際のご使用の際には、ご使用者各位の責任において、安全な使用条件の設定が必要となります。

以上